

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 5名回答、回答率 100%
保護者様： 22名回答、回答率 80%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・勉強スペースと活動スペースを分けることで空間の使い方を工夫しているが死角になる場所があり、配置が難しいことがある。
- ・生徒の特性に応じて対応することが難しいスタッフ配置の場合がある。
- ・人力的にもう少し余裕をもった支援体制を作りたい。女性指導員をもう1名増やしたい。

○業務改善

- ・保護者様に評価表のアンケートを実施後、集計し内容を基に改善案の話し合いを行っている。振り返りシートや共有ノートを用いて、改善点や疑問点等を上げやすい環境をつくれるよう努めている。

○適切な支援の提供

- ・個別支援計画作成時は、保護者様と面談実施・策定会議を行い作成している。
- ・活動内容は、季節を感じられるようなプログラムの立案や子どもに合わせた内容を心がけている。活動プログラムの立案は担当を分け行っている。活動時は、担当職員の負担が大きくなることもあるため、前もって計画し職員同士の割り振り等を密に行うことが今後の課題である。
- ・ミーティングはほぼ毎日実施している。午前中、生徒対応で行えない時は、ノート等活用し情報交換を密に行っている。

○関係機関や保護者との連携

- ・学校の引き渡しの際、先生方から伺った内容は職員へ共有するよう心がけている。
- ・現在、医療ケアが必要な生徒はいないが、今後主治医等との連携方法を検討する必要がある。
- ・当事業所が中高対象の為、移管前の他事業所からの引継ぎを受けている。中学にあがる前の利用生徒も増えて来たため、今後の小学校との連携も積極的に行っていきたい。
- ・児童発達センター等の専門機関や障害のない子どもとの連携をとった支援は十分とはいえない。

○関係機関や保護者との連携

- ・鶴見区連絡会には参加している。
- ・送迎時やサービス提供記録にて子どもの状況を共有理解に努めている。

○保護者への説明責任等

- ・契約時に運営や支援内容等の説明を行い、同意を頂いた上で契約している。
今後全職員がしっかり理解し説明出来るように努めたい。
- ・年に2回保護者会を実施し、保護者同士の交流の場を設けている。
保護者会の後に30分ほど時間を設け懇親会と言った名目で保護者様同士の繋がりを作っている。
- ・ブログを月に数回更新し、活動や教室の様子を発信している。

○非常時等の対応

- ・避難訓練は月1回地震・火災・水害・大雪・不審者等様々なケースを実施。年間を通して全ての子どもが実施できるよう、曜日ごとに計画している。
- ・アレルギー確認書を作成・掲示し、おやつ提供時にはアレルギーフリーのおやつかダブルチェックで確認している。
- ・ヒヤリハットは月に複数枚作成し、共有するよう努めている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

- ・もう少し広いスペースがあるとなお良い。
- ・子ども達は成長期なので、人数も増えてきて狭いのではと思う。
- ・職員が変わり、体制として大丈夫かと感じることがある。

○適切な支援の提供

- ・子ども達の特性をよく捉えてくださり、それに合った支援、またどんどんステップアップしていけるように支援してくれている。
- ・地域との交流がなく、閉鎖的に感じている。

○保護者への説明等

- ・苦情を言ったこと・思ったこと・聞いたことがない。
- ・毎回帰宅送迎時や連絡帳でよく教えていただけている。
- ・親の会開催や、HPをよく更新いただいている。

○非常時等の対応

- ・毎月避難訓練を実施していることが保護者にも周知されており、大半の保護者様が「定期的に必要な訓練がされている」と評価していただけている。

○満足度

- ・多くの子ども達が通所を楽しみしており、保護者は支援に満足しているという意見をいたいたことで、利用者の満足度の高さが伺えた。



アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・それぞれの子どもの特性に合わせて活動内容を選定するなどの工夫をこらした支援をすることができる。
- ・業務前のミーティングや共有ノートを活用し、職員同士で支援内容や特性理解の情報共有ができています。
- ・ブログや毎月のお便りを発行し、活動や教室の様子を積極的に発信している。

○改善点

- ・子ども達が狭いと感じない、空間活用の工夫。
- ・保護者様との信頼関係をより一層構築していき、より良い支援に繋げる。
- ・関係機関と連携した支援。
- ・活動プログラムの立案・準備等。
- ・地域交流がないので、地域の行事等に参加できる体制づくり。



中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・全指導員が活動の内容や目的を理解する。そのためにミーティングや情報共有の場を設けてわからないところや改善できる場所を指摘しあう。
- ・地域交流を行っていくためにも近くにある作業所等で体験や見学をさせていただく。
- ・関係機関との連携を図り、子どもへの支援の充実を図る。

○1年間で取り組む具体策

- ・3月に指導員全員で自教室のアピールポイントとウィークポイントを確認する。年間計画が決まり次第、各々が考えるプログラム案を出し合い、ニュースレターに記載。活動担当者はいるが指導員全員でプログラムを用意し、流れや取り組みについて話し合う。
- ・鶴見区連絡会等の関係機関との交流の場で、他機関との連携を図る。
- ・教室備品の配置変更等による活動空間の確保に努める。
- ・地域の方々にスマートキッズをアピールしていく。そこから地域交流を生み、行事に参加させていただく。

スマートキッズ